

東京蜘蛛談話会 2019 年度採集観察会

1. 期 日： 第1回 2019年 5月 19日 (日) 第2回 2019年 7月 7日 (日)
第3回 2019年 10月 20日 (日) 第4回 2020年 2月 16日 (日)
2. 場 所： 天覧山
3. 集 合： 集合 10:00
西武池袋線飯能駅改札
徒歩で天覧山まで移動
遅れた方は、バスもあります。(ただし1時間に2本)
4. 世話人： 平松毅久 080-6633-2737・嶋田順一

東京蜘蛛談話会 2019 年度合宿

2019 年度の合宿は山形県鶴岡市周辺で、次のように実施いたします。みなさん奮ってご参加ください。

1. 期 日： 2019年 8月 25日 (日) から 26日 (月)
2. 場 所： 山形県鶴岡市周辺
3. 宿 泊： ショウナイホテル・スイデンテラス
4. 費 用： 宿泊費に庸車費(燃料費)等を加え、1泊 13000円くらいを予定しています。
5. 担 当： 新海 明・谷川明男
※詳細、申し込みについては、別紙ご参照ください。

KISHIDAIA 発刊 50 周年記念号の原稿募集のお知らせ

2019年1月で KISHIDAIA が誕生してから、50年になり、114号を記念号1として発行しました。以下のような要領で記念号2の原稿を募集しますので、たくさんのご投稿をお待ちします。談話会の活動についての思い出、要望などなんでも構いません。字数制限もありません。

締め切り：2019年6月末日

詳細については、新海明・谷川明男まで。

東京蜘蛛談話会例会総会

2019年5月5日 東京環境工科専門学校にて



参加者一同

(1) 東京蜘蛛談話会
「およそ」50年の歩み
KISHIDAIA50 周年記念
新海 明



(2) 子育てするクモ
「どんな子も育てる」
コガネヒメグモと「そ
うでもない」アシプト
ヒメグモ 新海 明



(3) 最近の研究成
果: アシナガグモ・オ
オハシリグモ・ゴミグ
モ

馬場友希



(4) タイ王国クモ見
遊山の旅 2018B

谷川明男



(5) ジョロウグモ幼
体の前疣には大瓶状
腺が「2本」ある

鈴木佑弥



(6) クモ切手の世界

笹岡文雄



(7) ヤチグモの交尾
行動とヒゲナガハシ
リグモの集団形成

芹田凌平



(8) クモの話題3つ
国際蜘蛛学会, 特定外
来生物, タランテラと
タランチュラ

小野博嗣



2018 年度決算

東京蜘蛛談話会

収入の部

2019 年 5 月 5 日

項 目	決算額(¥)	備 考
1.会費	370,000	欄外 1
内訳 a.18 年度会費	98,000	
b.19 年度以降前納会費	258,000	
c.17 年度以前未納分会費	14,000	
2.寄付	1000	宮本美織様
3.雑収入	0	
4.別刷り代	30,681	112,113 号
5.利息	8	
6.クモ基本 60 売上	5,241	
収入合計	406,930	
6.繰越金		
(1)16 年度以前 前納会費	340,200	
内訳 a.18 年度分	258,600	
b.19 年度分	47,100	
c.20 年度分	21,100	
d.21~24 年度分	13,400	
(2)特別会計 (プール金)	2,327,674	
繰越金合計	2,667,874	
合計	3,074,804	

支出の部

項 目	決算額(¥)	備 考
1.会誌作成	407,384	113,114 号
2.会誌発送	39,059	
3.別刷り作成・発送	13,827	113 号
4.談話会通信	70,535	153,154,155 号
5.事務局等通信費	32,258	
6.事務用品等	0	
8.予備費	0	
支出合計	56,063	
9.繰越金		
(1)18 年度以降の前納会費	339,600	
内訳 a.19 年度分	255,100	
b.20 年度分	57,100	
c.21 年度分	13,800	
d.22~24 年度分	13,600	
(2)特別会計 (プール金)	2,172,141	
繰越金合計	2,511,741	
合計	3,074,804	

繰越金の預け先：郵便貯金（普通）	¥206,059
振替口座	¥2,283,634
現金	¥22,048
合計	¥2,511,741

欄外 1：18 年度会費は、前納分 258,600 円とあわせて 356,600 円受領しました。

以上、報告いたします。2019 年 4 月 1 日 会計 須黒達巳

適切に会計処理されています。2019 年 4 月 21 日 会計監査 興石紗葉子

2019 年度予算

東京蜘蛛談話会
2019 年 5 月 5 日

収入の部

項 目	金 額(¥)	備 考
1. 19 年度会費	449,100	2,000 円×112 人+1,900 円×9 人
内訳 a.前納分	255,100	+1,000 円×14 人
b.19 年度納入予定分	194,000	2,000 円×85 人+1,000 円×24 人
2. 寄付	0	
3. 雑収入	0	
4. 別刷り代	50,000	
5. 利息	500	
収入合計	499,600	
6. 繰越金		
(1)20 年度以降の前納会費	84,500	
内訳 a.20 年度分	57,100	
b.21 年度分	13,800	
c.22~24 年度分	13,600	
(2)特別会計 (プール金)	2,172,141	
繰越金合計	2,256,641	
合計	2,756,241	

支出の部

項 目	金 額(¥)	備 考
1. 会誌作成	500,000	250,000 円×2 回 (115,116 号)
2. 会誌発送	35,000	
3. 別刷り作成・発送	50,000	
4. 談話会通信	90,000	30,000 円×3 回 (156,157,158)
5. 事務費・通信費	25,000	欄外 1
6. 事務用品等	30,000	腕章製作費 20,000 円を含む
7. 総会・例会	20,000	10,000 円×2 回
9. 予備費	10,000	
支出合計	760,000	
10. 繰越金		
(1)19 年度以降の前納会費	84,500	
内訳 a.20 年度分	57,100	
b.21 年度分	13,800	
c.22~24 年度分	13,600	
(2)特別会計 (プール金)	1,911,741	
繰越金合計	1,996,241	
合計	2,756,241	

欄外 1：事務局・会計・編集各 5,000 円，通信 6,500 円，観察会・合宿事前調査費各 10,000 円
通信費，振込手数料等 3,500 円

2018 年度会員動向

2018 年 4 月 1 日時点の会員数 236 名

入会 15 名，退会 7 名

2019 年 4 月 1 日現在の会員数 244 名（一般 206 名，学生 38 名）

佐藤幸子さん追悼 飼育の達人，そしてクモゼミ

新海 明

今年 3 月 6 日に佐藤幸子さんが亡くなった。往年 92 歳だという。永くお付き合いしていただいたが、佐藤さんとの初めての出会いは記憶にない。おそらく東京蜘蛛談話会の総会か合同例会であったのだろう。私がつぶん高校生か大学生の頃のことだ…と思う。

大学を卒業して、私は高校の教員になった。30 歳に近くなってジョロウグモの網に出合い、その研究にのめり込み始めると、網の研究をどのようにし、どのように発表すればよいのか分からなかった。中高生の夏休みの自由研究のような報告をまとめて ATYPUS という、当時のクモ学会の補助機関誌に投稿をした。1982 年のことである。その反響は思わぬところから届いた。コスタリカの大学でクモの研究をしていたエバーハードさんから突然、文献の入った郵便が勤務先の高校に届いたのだ。その時の感動と驚きは今でもありありと思い出すことができる。エバーハードさんとの交流で、網に関する様々な文献の情報を知ったのだが、関連する文献は今のようには入手できなかった。

そんな時に、その悩みを解決してくれたのが京都にいた吉田 真さんだった。PSYCHE というクモとハチの研究が多く掲載された米国の雑誌を持っていたのだ。吉田さんが所属していた立命館大学には遠藤彰さんというハチの研究者もいたからだろう。私は京都で吉田さんが開いていたクモゼミに毎月のように参加するようになった。1983 年のことだ。吉田さんは所蔵する海外の雑誌のコピーを何十枚も無償で提供してくださった。

京都でのクモゼミでの活発な議論や新たなクモ情報に触れる機会が増えるにつれて、私は東京でもクモゼミができないものか…と思うようになった。科博の小野展嗣さんと日本歯科大にいた藤井靖浩さん杏林大学の松本誠治さんなどに声をかけたが、皆さんさまざまな事情があったようで実現できなかった。プロの研究者は何かと忙しそうだった。そこでアマチュアのクモ研究者に声をかけることにした。いの一に声をかけたのが佐藤幸子さんと池田博明さんだった。

佐藤さんは当時、ナニワナンキングモやスソグロサラグモの飼育を手掛け、その記録をたびたび報告されていた。池田さんはムラクモヒシガタグモの網型や捕虫法を調べていた。たぶん、ともにクモの生態情報に関心がある方たちで、私と同じ思いを共有しているに相違ないと考えたからだ。新宿の西口のとある喫茶店で、3 人で会って東京クモゼミの構想を打ち明けたことを懐かしく思い出す。そして、市川市の菅野にあった加藤輝代子さんの旧宅をゼミの会場としてクモゼミが始まったのは 1985 年 3 月 3 日だった。この日から、佐藤さんが傘寿を迎えた数年後までの約 25 年間にわたって、ほぼ毎月すべてのゼミに佐藤さんは参加してくださった。ゼミでは海外の論文のレビューなどもたびたび報告されていた。そして、最も得意とするクモの飼育なども手掛け、その経過も発表されていた。飼育していた子グモたちに餌を与えたときの様子を語る佐藤さんは、さながら赤子を育てるさまそのものだった。飼育は子育てのように手をかけなければ無

理なんだなあ…と思い知らされ、私にはとてもまねの出来ない作業だ（と、「作業」と考えること自体が、そもそもダメなのだろう）と思ったものだ。

東京でのクモゼミは各自の報告が終わる夕方から飲み会となるのが慣例だった。加藤さんの夫君である加藤宏保氏の厳命だったからである。彼はゼミが終了に近づくと「つまみ」の仕上げに取り掛かる。ゼミが長引くようになると「いつ終わるんだ」と、いささか不機嫌となった。我々は急いでゼミを終わらせて飲み会になだれ込んだ。それを察知して加藤家の猫の「クロちゃん」は佐藤さんの横に座り込んでいる。クロちゃんはゼミが終わらなければあまり部屋に入り込まなかった。どうやって知るのか、終了と同時に部屋に滑り込んできて、必ず佐藤さんのそばで静かに座って顔を見上げていた。「つまみ」の刺身が差し出されると美味しそうにそれを食べるのだった。私も他の仲間もクロちゃんに刺身を上げていたはずなのだが、いつでも初めは佐藤さんの横にちゃっかり座わるのだった。

飲み会ではありとあらゆる議論がなされた。クモの話題に限らず生物学やら学問や大学の在り方、教育に関して、さらに政治がらみの話から、世間の噂話までいろいろな話題で白熱した。若気の至りで皆と交わすさまざまな議論を、佐藤さんは傍らで美味しそうに日本酒を飲みながら温かく見守って聞いて下さっていた。帰りしなに「すみません。調子に乗って興奮しました」と懺悔すると「いいよ。若いのだから遠慮せずに」と返していただいた。慈母という言葉がこれほどまでに似合う方はいないだろう。思うに佐藤さんのご長男と私は同い年だという。まさに母であったのだ。

たまに北総線の矢切駅から加藤宅に歩いてくる佐藤さんに出会うと「そのコンビニでビールを買っていくので、お先に行ってください」と言われた。「なんということ。我々でお持ちいたします」と、ぞろぞろと佐藤さんの後についてコンビニに入りビールの買い出しを手伝ったこともあった。重いビールをこのようにして、いつも持ってきて下さっていたのだということをはじめて知った。

ご自宅で躓き、足が不自由になられてからはクモゼミに参加するのが叶わなくなってしまった。佐藤さんがクモゼミに参加できなくなってからも、私は正月と6月に必ずお手紙を出した。「ペンを持つ力もなくなってしまい、ごめんなさい」と鉛筆で書いたお返事を頂いた。そして、そこにはその折々の花の絵が添えられていた。なぜかクモの絵は一度もなかった。

今年、2019年の正月は前年に父が他界したために年賀状は出せなかった。佐藤さんの訃報を知ったのは桜が満開となって久しい4月7日、34年目となったクモゼミの日であった。



東京クモゼミ 20 周年記念会にて

二日月

加藤康子

クモが好き と言うと

「夏の空に むくむくと湧きあがる
入道雲か

空いっぱいには 落書きしたような

巻雲がいいね」 と、友が言う

私は 笑って うなづく

クモも 雲も 好きだから

月が好き と言えば

「そうそう 満月が 東の空に

しずしず昇ってくるのを見ると

私は 誰れかれなく話しかけてしまう

のよ

ほら！ 満月ですよ あの大きな月を

ごらんなきい って」

友は楽しげに 笑う

群青の天空に

磨きぬかれた精緻な光を発する

満月を見つけたら

私の心も 高く高く 飛んでゆくだろう

けれども

薄あかりを背景に 今、まさに

すばらしく魅力的な足の動きで

今宵の網を編む クモに

私は たずねたい

西の空に ほんのひととき

名残りの光を引いて

沈んでいった 細い月を

見たことがあるかと。

いつのまにか めぐりくる二日月

日を数え 追いかけても

なぜか つかまえられない二日月を

私は 探している

子供のころに ふと見上げた夕空にか

かった あるか ないかの 弧を。

入退会は：

事務局 初芝伸吾 〒186-0002 東京都国立市東 3-10-8

コンフィデンス高垣 105 有限会社エコシス

E-mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

KISHIDAIA 原稿投稿先：

谷川明男 〒横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416

E-mail : dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

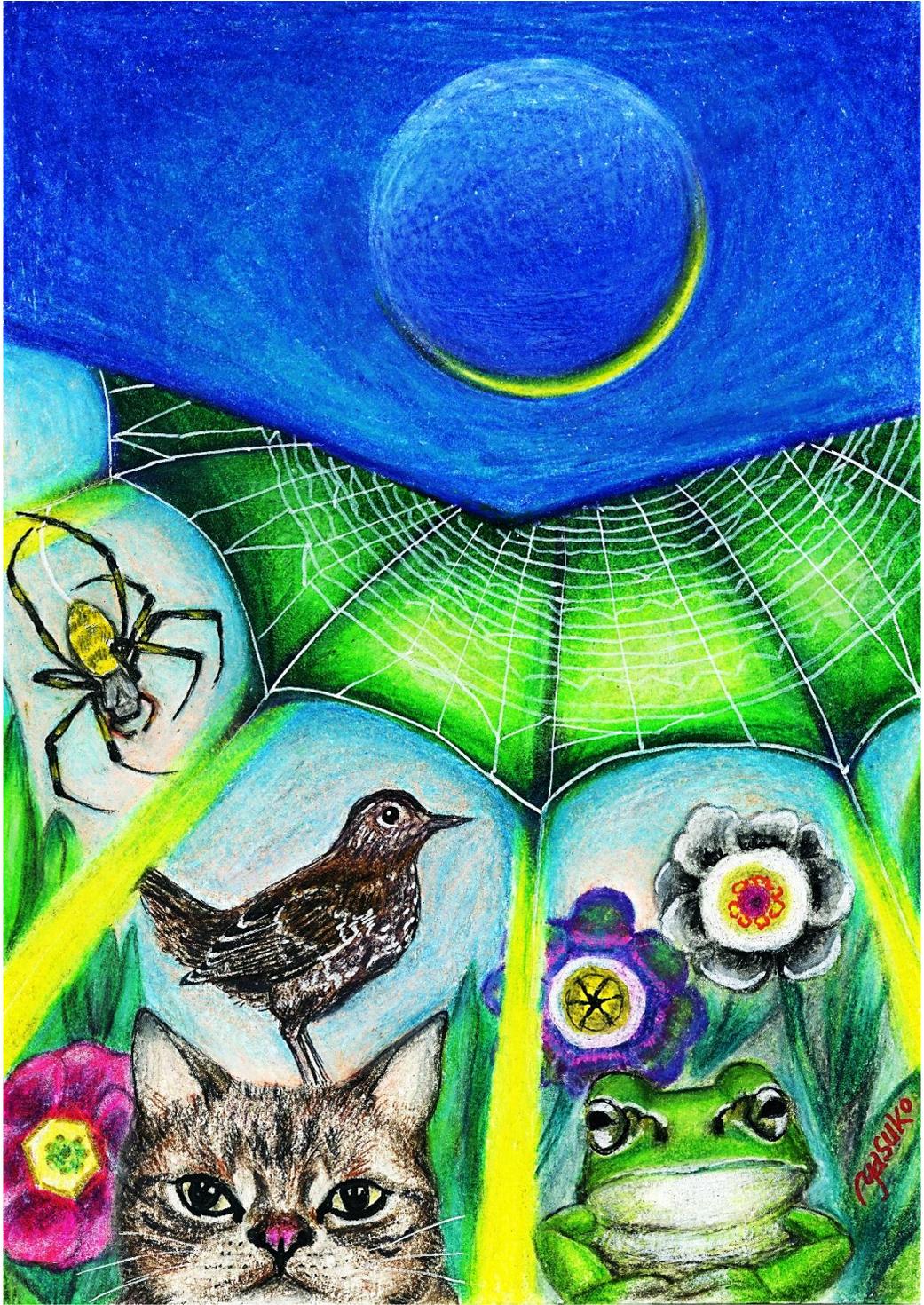
キンダイアの原稿締め切りは、6月末日と12月末日です。

通信原稿投稿先：

谷川明男 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416

E-mail : dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

通信の原稿締め切りは、4月末、8月末、12月末です。



東京蜘蛛談話会の会費は、一般 2000 円，学生 1000 円です。

郵便振替口座 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会へお願いします。